

## 学校教育自己診断結果データ分析（令和2年度）

### 1. 自己診断配付数及び回答数

令和2年度回答人数

	教員	生徒	保護者	合計
配付	63	942	942	1947
回答	63	908	901	1872
%	100	96.4	95.6	96.1

### 2. 観点別肯定的回答割合

	R2年度 肯定率(%)	R1年度 肯定率(%)	H30年度 肯定率(%)	H29年度 肯定率(%)
<b>【保護者】</b>	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校に対する意識に関するもの	92	92	92	93
②学習指導に関するもの	72	72	74	77
③生徒指導、児童・生徒理解に関するもの	88	85	84	89
④進路指導に関するもの	82	84	86	89
⑤いじめに関するもの	86	87	85	88
⑥道徳教育・人権教育に関するもの	89	89	85	89
⑦情報提供に関するもの	82	78	84	81
⑧学校教育への参画に関するもの	41	78	76	78
<b>【生徒】</b>	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校に対する意識に関するもの	88	81	83	83
②学習指導に関するもの	86	84	83	85
③生徒指導に関するもの	78	75	84	84
④進路指導に関するもの	90	87	89	89
⑤いじめに関するもの	84	74	83	85
⑥教育相談に関するもの	63	68	69	70
⑦道徳教育・人権教育に関するもの	86	83	82	80
⑧特別活動、学校行事等に関するもの	90	91	91	94
<b>【教員】</b>	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校組織に関するもの	76	80	84	78
②教育活動の改善に関するもの	68	75	79	73
③学習指導に関するもの	73	79	75	65
④生徒指導に関するもの	75	77	75	81
⑤進路指導に関するもの	86	85	82	90
⑥いじめに関するもの	77	95	90	86
⑦教育相談に関するもの	81	92	85	86
⑧特別活動、学校行事等に関するもの	76	75	89	84
⑨保護者への情報提供に関するもの	75	75	78	75

### 3. 分析

#### 【学習指導】

- 「授業を受けることで知識が増えたり、技術が身についたりする」については、生徒向けでは89%（R1:87%）と2ポイント増加した。
- 「ICTを使った授業はわかりやすい」については、82%（R1:81%）とほぼ同じ割合であったが、教員向けの同項目の質問は87%（R1:82%）と5ポイント増加した。ICT機器を活用した授業の定着が昨年よりもさらに進み、効果的な授業を実施できている。
- 「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」については生徒向けでは88%（R1:85%）と3ポイント増加した。教員では73%（R1:79%）と6ポイント減少した。教員と生徒の認識にやや差があることから、思考力を高める授業づくりに教員研修等を通じてさらなる充実を行う。

#### 【進路指導】

- 「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」については、生徒は90%（R1:87%）、保護者向けも「進路について適切な指導を行っている」については82%（R1:84%）、教員は「一人ひとりにきめ細かい指導している」86%（R1:85%）と8割以上の関係者が高評価をしている。進路指導については学校目標でもある『第一希望の進路の実現』を達成するためにも継続した方向性での取組を実施していく。

#### 【生徒指導】

- 「学校生活についての先生の指導は納得できる」については、生徒向けでは78%（R1:75%）、保護者向けでは84%（R1:85%）であり、今後も生徒と保護者の両者の理解を得ながら、生徒指導を進めていく。
- 保護者は「家庭連絡や意思疎通がきめ細やかで相談に応じてくれる」が79%（R1:75%）で4ポイント上昇した。一方で教員の「家庭との緊密な連携ができていく」が81%（R1:88%）であるため、保護者の立場にたった相談対応をさらに推進する。
- 「いじめについて困ったことがあれば真剣に対応」については、生徒は84%（R1:84%）、保護者は86%（R1:87%）、教員は77%（R1:95%）であったことから、さらに組織的にきめ細かい迅速な事象対応を行っていく。
- 生徒の「担任の先生以外にも相談することができる先生がいる」の項目は、63%（R1:68%）と5ポイント減少した。担任と生徒間のコミュニケーションに加えて、生徒にかかわる様々な先生にも気軽に相談できる体制を充実していく。

#### 【学校運営】

- 「校内研修は教育実践に役立つ内容」について、教員は74%（R1:87%）と13ポイント減少している。授業力アップや生徒支援の研修など、5年以上継続しているため、次年度以降、研修内容や研修体系など、さらなる工夫をしていく。
- 「授業公開などに参加」について、コロナ禍で保護者に学校に来校してもらえる機会が減っているため、保護者は41%（R1:79%）と大幅に減少した。今後はコロナ禍でも保護者に学校教育に参加してもらおう工夫をしていく。
- 「学校は日常の取り組みについて、ホームページ等で情報提供」については、保護者は82%（R1:76%）で6ポイント増加した。ライデンメールやブログ発信を充実した結果である。今後は、ホームページを開いたときに、どこにどのような情報が掲載されているか、一見しただけでわかるような工夫をし、さらに学校の教育活動を発信していきたい。